

市内最大の火災「花咲町の大火」

表参道・新道通りの商店街や民家を焼き尽くす

太平洋戦争の末期、昭和20年5月9日の午後11時から午前0時前後に町の中心部から失火による火災が発生しました。「当日は風もなく穏やかな日で、火事は局所的なもので治まるかのように思えた」(体験者の話)ののですが、しばらくするとまたたく間に燃え広がり、朝方に鎮火したときには、花咲町(現花崎町)の表参道・新道通りの商店街や民家などをほとんど焼き尽くす大火災となってしまいました。

消火活動には、近隣の公津村・八生村・遠山村・中郷村・富里村・安食村の警防団、成田町の旅館を臨時宿泊所としていた傷痍兵、公津に駐屯していた軍隊(決部隊)などが応援に駆け付けました。また、成田線の機関車が石炭を入れる箱に水を積んでくるなど総力を挙げて消火にあたりました。火災の範囲は現在のJR成田駅東口前から滝澤酒蔵までで、184世帯が家を消失する市内最大の火災となりました。

当時は戦時中でもあり生活物資が不足し、配給制が実施されるな



戦時中でもあり、空襲にあったと思われないために、「空襲にあらす類焼なり」という標柱を立てた

一夜にして焼け野原となった花咲町。現在の宝屋(左手前)から土屋商店(右奥)付近(昭和20年5月10日)

ど人々の生活は決して楽なものではありませんでした。そこで成田町では緊急罹災救助食品として、食糧営団成田配給所から米572kg、市場からネギ・里芋・しょうゆなどを用意して、新勝寺、大野屋、梅屋などで炊き出しをして町民に配りました。

焼け出された後の町民は、親類や友人などの手助けで生活を再スタートしましたが、食糧や着る物もなく大変な生活を強いられました。しかし、半年もたつと掘っ立て小屋を建て商売を始めたたり、昭和21年になると家の建て直しが始まるなど、復興に向けて力強く動き出しました。

編集後記

市の消費生活センターに寄せられている相談が12月末で約600件もあると聞き、驚きました。携帯電話やインターネットショッピングなど、新たな手法によるトラブルが急増中とのこと。物が豊富になり、現金がなくても気軽になんでも買える時代になりました。それだけに、甘い言葉による誘惑には

注意が必要です。「世の中にうまい話はない」と肝に銘じておきましょう。広報紙でも1日号に「消費生活相談Q&A」コーナーを設け、トラブルの多い事例などを紹介していますので、参考にしてください。そして「消費生活の困った」に遭遇したら、あきらめずに同センターへ相談してみましょう。